

観光社会資本の事例

テーマ	まちづくりと一体となった水景都市の創出
<p>【施設の状況写真】</p>  <p>民間と行政とが一体となって整備した賑わいある河川空間</p>	 <p>水環境館「環境学習施設」 河川観察窓 (川底をのぞくことができる)</p> <p>市民のアイデアを活かした河川施設</p>
<p>【施設の利用写真】</p>  <p>賑わいを見せる河川敷のステージ</p>	<p>アユをはじめ多くの魚類が存在し、鵜飼も実現</p>  <p>カヌー体験</p>  <p>水質の向上した河川空間を中心としてさまざまな活動が繰り広げられている</p>
<p>【観光資源としての利用状況】</p> <p>紫川は、北九州市の都心部を流れるシンボリックな河川です。下水道整備や河川整備を行うことにより、公共用水域の水質保全と快適な生活環境、水環境が確保され魅力ある水辺空間へと変わってきました。現在では、民間と行政が協力しながら河川や公園、道路と周辺市街地整備を一体的に行い、川を中心としたまちづくりを進めています。</p> <p>河川の水際には人が集まり、周辺施設の観光人口も年々増加しています。また、近隣の商店街や百貨店等で構成する、紫川マイタウンの会は、きれいになった紫川の水辺の賑わいづくりの一環として貸しボートや遊覧船、橋上のパラソルショップ等を行っています。</p>	

テーマ まちづくりと一体となった水景都市の創出

【社会資本の基礎データ】

名称	紫川	事業名	紫川マイタウン・マイリバー整備事業
所在地	福岡県北九州市小倉北区船場町	事業主体	北九州市
事業名	公共下水道事業	事業期間	昭和63年～平成25年
事業主体	北九州市		
事業期間	昭和38年～平成17年		

【社会資本の役割・効果】

下水道整備

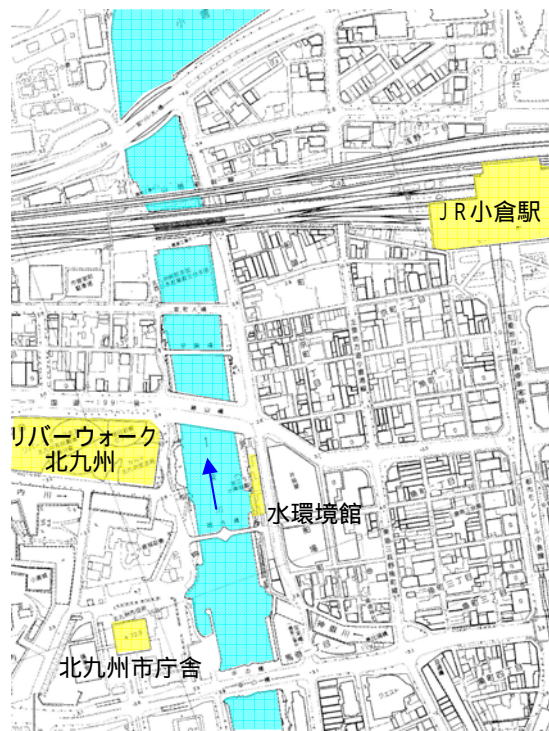
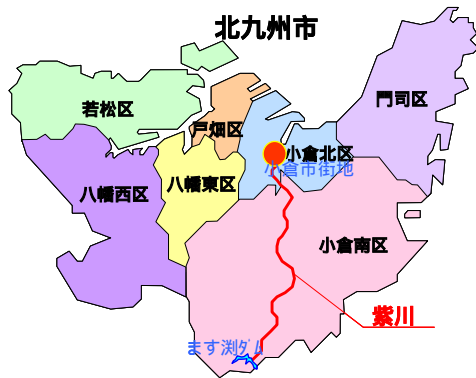
昭和30年から40年にかけて紫川は上流の工場排水や生活排水により“どぶ川”と呼ばれるほど汚染が進んでいました。下水道事業は昭和38年に市内で最初の処理場の供用開始とともに、本格的に事業が行なわれ、平成16年度末で普及率も99.3%に達し、公共用水域の水質保全と快適な生活環境、水環境が確保されました。現在は、アユやシロウオが遡上し、上流ではホタルが舞うようになりました。

河川整備

北九州市の中心市街地を貫流する紫川流域では、民間と行政が一体となって取り組んでいるマイタウン・マイリバー整備事業の実施により、都市の中心エリアとして「安全」かつ「潤い」ある河川空間に生まれ変わりつつあります。事業の計画段階から、市民に愛され、親しまれる川とまちにするため、広くアイデアを募集し、整備に活用してきました。

現在、この紫川を中心として、さまざまなイベントや河川体験活動などが行われており、この河川空間を生かして、さらなる賑わいの創出と魅力的な都市景観の形成を図っていきます。

【位置図】



【関連ホームページ】北九州市 <http://www.qbiz.ne.jp/cecera/>